

○ 本校の概要

- 児童数467名(3月1日現在) 学級数15学級 サポートルーム拠点校
- 学校全体は落ち着いた雰囲気である。
- 校内研究では、「児童の自己肯定感や自己有用感を育む特別活動 ～学級活動の充実を通して～」というテーマを掲げ、特別活動で取り組んでいる。
- 全校をあげて「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、朝のフリー・ジョイ・ランニングや体育での持久走、短縄跳びの実践を通して、児童の体力向上を目指す。
- 「家庭学習推進週間」を学期に1回ずつ設けて取り組むことで、家庭学習の充実を図る。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄					
								評価	人数	コメント			
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもに生きる力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:80%以上	4	<b>肯定的評価:82.7%</b> 昨年度より、12%上回った。 ○保護者への周知方法を改善したことが、高評価につながったと考える。 ①ホームページの更新回数が増やした。②学校評価アンケートの保護者向けプリントに、今年度の取組の概要を掲載した。 ○令和5年度の重点目標「明日も行く」と思える楽しい学校」につながる取組⇒「分かる授業」「楽しい運動」「特別活動の充実」について、ご理解いただいた。 ○「フリー・ジョイ・ランニング」や「エコキャップ回収活動」等の新たな取組について、本校の特色ある教育活動としてご理解いただいた。 ●「おたのみのづくり」への教員認知がまだ低い。令和7年度に始まる大田区独自教材「おたのみの未来づくり」につながる内容なので、令和6年度は教員の職務分掌に企画チームを立ち上げ、見直しをもって企画したり周知したりしていく。	A	9	・新たな取組として実施されている「フリー・ジョイ・ランニング」は、とても素晴らしい貴校独自の特色ある活動だと思います。この活動が定着し、今後さらに発展していくことを期待します。 ・フリー・ジョイ・ランニングはネイミングも楽し、自分も走ってみようと思った児童も出てきたと思う。駅伝での結果にもつながり素晴らしい取組であると思う。 ・SDGsの取組として、エコキャップ回収活動を通じてその先にある気候温暖化の現状を知る学習を深めてほしい。 ・新たな取組を、生徒たちと相談して始めるのもいいかもしれません。先生は大変なことになるかもしれませんが、算数の授業において、自分の考えをうまく表現できない児童に、教員がその意を汲みながら補足して、その児童の「言った！」という達成感を引き出している場面を多く見ました。 ・社会の変化が激しいが、人間性、友情といったものは普遍的なもので、これを大切に教育に当たらせていただきたい。 ・評価します。			
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や授業を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:70%以上	<b>肯定的評価:83.1%</b> 昨年度より、0.7%とわずかではあるが上回った。 ○4年生以上で実施する「大田区学習効果測定」で、現5年生は区内順位上昇率 12位、現6年生は10位であり、昨年度に比べて数値的に見ても、学力が向上した。 ○授業改善プランを生かして授業を行ったり、校内OJT研修を活用したりして、教員が研鑽に励んでいる成果である。 ●補習について補助員の勤務条件との兼ね合いがあり、今後改善を目指す。 ●教員の欠員により、今年度は算数少人数指導が行えなかった。ゆっくり習熟する児童への手当てが少なかった分、理解が十分でない児童が増えている現状がある。		B	1				
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4	4			<b>肯定的評価:83.9%</b> 昨年度より、1.6%上回った。 ○今年度から校内研究で「特別活動」に取り組み、人間関係形成・社会参画・自己実現の3つの視点から児童を育成している。その成果が少しずつ現れてきているので、令和6年度もこの取組を継続し児童の自己肯定感や自己有用感をさらに高めていきたい。 ○しじめや不登校に対して、教員一人ですべて対応するのではなく、大変難しいことですが、区の方でサポートしていただくようお願いいたします。 ●「特別の教科 道徳」は、毎週1回年間35時間の規定に沿って確実に実施し道徳教育の充実を図っている。取組内容の「研修」や「資料活用」の文言で自己評価に迷った教員がいたようである。 ●学校生活調査について、結果を出すだけにとどまらず組織的で具体的な対応策を考える。	C				
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4				児童アンケートで「授業はよく分かりますか」に肯定的な回答		D		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4						4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	1:60%未満	
		環境問題について考えたり解決に向けて実践したりする。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4							4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4
学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4								
算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
OJT組織を活用し研修会での実践を通して、児童への指導力を向上させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守らうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	4:80%以上	4	<b>肯定的評価:83%</b> 昨年度より、1.6%上回った。 ○今年度から校内研究で「特別活動」に取り組み、人間関係形成・社会参画・自己実現の3つの視点から児童を育成している。その成果が少しずつ現れてきているので、令和6年度もこの取組を継続し児童の自己肯定感や自己有用感をさらに高めていきたい。 ○しじめや不登校に対して、教員一人ですべて対応するのではなく、大変難しいことですが、区の方でサポートしていただくようお願いいたします。 ●「特別の教科 道徳」は、毎週1回年間35時間の規定に沿って確実に実施し道徳教育の充実を図っている。取組内容の「研修」や「資料活用」の文言で自己評価に迷った教員がいたようである。 ●学校生活調査について、結果を出すだけにとどまらず組織的で具体的な対応策を考える。	A	9				
	道徳教育推進教師を講師とした研修や、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3	3:70%以上	児童アンケートで「自分にはよきところがあると嬉しいよ」に肯定的な回答		B	1				
	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	3	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4					
	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4					
	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4					
	特別活動の校内研究実践を通して、児童の自己肯定感や自己有用感を育む。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			4					
4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
プラン3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみまします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	4:80%以上	4	<b>肯定的評価:88.1%</b> 昨年度より、1.2%上回った。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」について学校全体で取り組み、教員の意識も向上した。また、長期休業日「生活カード」を配布し家庭で実践してもらうことを通して、保護者に啓発することができた。 ○上記の取組を通じて、食育についての実践も進んだ。 ○「フリー・ジョイ・ランニング」や持久走など、運動習慣の確立に向けて、学校全体で取り組むことができた。 ●主体的に運動に取り組ませることについて、ほぼ全員の学級担任ができたが、できなかった教員に対しては指導活動を行っている。	A	9				
	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	3:70%以上	児童アンケートで「元気がよく遊ぶなど、すすんで体を動かしていますか」に肯定的な回答		B	1				
	体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	2:60%以上			・「早寝・早起き・朝ごはん」は、生活リズムの原点であると思うので、家庭と共に児童本人も理解できるようにこの時期に習慣化できることを望ましい。プラス運動で体が整う感覚がより感じられると思う。 ・給食を通して食への関心は給食委員会の活動もあり、高まっているのではないかと。食育は健康維持のため極めて重要であり、体力推進のためにも、力を入れての教育をお願いします。 ・毎年運動会は素晴らしいです。今年も、どの学年でも頑張っていました。感謝しました。学校の前を通ると、体育授業も頑張っています。 ・ゲーム漬けの子どもの多い中、フリー・ジョイ・ランニングのように、体を動かす遊びにもつながることができるとよいと思います。 ・「フリー・ジョイ・ランニング」や持久走を通して、楽しく積極的に運動する様子が見られ、体力向上につながっていると思う。 ・フリー・ジョイ・ランニングに参加している児童たちの、走り続けた後の達成感に満ちた笑顔は、見ていてほほえましいです。 ・大変努力されている。	C				
	めあてカードや体育ノート等を用いて、目標を決めたり振り返りする時間を設定することで、主体的に運動に取り組ませる。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3	1:60%未満				・道徳の授業において、教員はできるだけ多くの児童の発言を引き出し、肯定的に受け止めていると思います。また、ワークシートを用いて、考えを言語化することにも取り組ませていると思います。 ・どの学年も落ち着いていると、授業参観でも感じます。 ・学校だけの問題ではなく、大変難しいことですが、いじめ、不登校への対応はしっかりと行っていると感じ、自分に自信をもてるように自己肯定感を大切に育てようとお願いたします。 ・いじめや不登校に対して組織的に対応している様子は、校長先生の日頃のお話からも理解できる。	D			
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					4			
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					4			
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
プラン4 増進の向上と健康の	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4:80%以上	4	<b>肯定的評価:83%</b> 昨年度より、3.7%上回った。 ○校内研修等の様子や図書室やタブレットを活用した教育活動について、ホームページ等を使って保護者へ周知を図った成果が表れている。 ○授業改善や「凡事徹底」について、教職員の意識は高い。校内OJTのみならず自主的な研修に参加する教員が多くなった。このような取組が授業力向上や当り前のことを徹底して行うことにつながっている。 ●タブレット端末については、学級閉鎖時等に活用できるといいという保護者からの意見がある反面、家庭でも依存しがちになり自分一人で書くことを億劫がったりするというマイナスのご意見もある。タブレット使用に関するルールの見直しが必要である。	A	9				
	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4	3:70%以上	児童アンケートで「学校は、学習環境が整っている」に肯定的な回答		B	1				
	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	3	2:60%以上			・学校は、児童の安全・安心に細心の注意を払って、様々な取組をしていると思います。 ・タブレット端末の活用は、今後の教育の大きな柱だと思います。有効な活用方法の探求に努めてください。 ・タブレット、良循環にしたいと感心します。 ・授業時間に制約があり、従来の教育の仕方とタブレットの使用は難しいと思いますが、先生方が絶えず研修をなさり、良い方向に進んでいくと感じます。 ・タブレットのルールは、各家庭で決めるべきものと思います。	C				
	校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4	1:60%未満				・PTAと青少年共催のミニ運動会では、多くの教員が参加して一緒に楽しんでいたのが、子どもたちも大喜びしていました。 ・地域と連携をとった活動が行われており、さらに充実できるよいと思っています。 ・地域清掃、サースクールなど地域との触れ合いもとてもいいと思います。町たんけん子どもたちは、道路もちゃんと歩き、お店の方の話をしっかり聞いていました。先生方が付いて行かず、子どもたちにとって良い体験だと思いましたが、事前の先生方の子どもたちへの言い聞かせは、大変だったと思います。 ・地域の連携はうまくいっていると思われず。 ・また、何か協力したいと思っています。 ・これからも地域力を生かし、行事を含めて教育活動に協力していきます。	D			
	落ち着いた学級・服務事故のない学校にするために、当たり前のことを徹底して行う「凡事徹底」を実践する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	4:80%以上					<b>肯定的評価:91.3%</b> 昨年度より、3.5%上回った。 ○校内の情報担当者がホームページ更新の計画表を作成し、積極的に情報を発信することができた。 ○学校支援地域本部が主体となり、夏まつりやミニ運動会など教員の参加が多く、子どもたちも楽しみになったと思う。 ○教員の地域行事の参加は家庭の都合もあり全員はできなかったが、昨年度よりかなり多くの教員が協力することができた。 ●地域教育連絡協議会では、資料を作成し評議員に必要な情報を共有したが、教員への周知が足りず毎回おこなっていることが伝わってなかった。どのような資料を用いてどのような会議を行っているかを、教員に周知していく。	A	9	
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。						4		
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
プラン5 魅力ある教育環境づくり	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4	4:80%以上	4	<b>肯定的評価:91.3%</b> 昨年度より、3.5%上回った。 ○校内の情報担当者がホームページ更新の計画表を作成し、積極的に情報を発信することができた。 ○学校支援地域本部が主体となり、夏まつりやミニ運動会など教員の参加が多く、子どもたちも楽しみになったと思う。 ○教員の地域行事の参加は家庭の都合もあり全員はできなかったが、昨年度よりかなり多くの教員が協力することができた。 ●地域教育連絡協議会では、資料を作成し評議員に必要な情報を共有したが、教員への周知が足りず毎回おこなっていることが伝わってなかった。どのような資料を用いてどのような会議を行っているかを、教員に周知していく。	A	9				
	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評議員に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3	3:70%以上	児童アンケートで「学校は、地域力の協力を得ていますか」に肯定的な回答		B	1				
	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4	2:60%以上			・学校支援地域本部が主体となっている活動では、地域力を生かした教育活動につながっているようなので、地域教育連絡協議会での有用な情報も、ぜひ教員の方々に周知していただき、学校・保護者・地域三位一体のさらなる連携につながることが望みます。 ・地教育を通じて学校の様子を伝えていただいて、地域も問題解決に協力していきたい。 ・夏まつり、ミニ運動会など教員の参加が多く、子どもたちも楽しみになったと思う。 ・PTAと青少年共催のミニ運動会では、多くの教員が参加して一緒に楽しんでいたのが、子どもたちも大喜びしていました。 ・地域と連携をとった活動が行われており、さらに充実できるよいと思っています。 ・地域清掃、サースクールなど地域との触れ合いもとてもいいと思います。町たんけん子どもたちは、道路もちゃんと歩き、お店の方の話をしっかり聞いていました。先生方が付いて行かず、子どもたちにとって良い体験だと思いましたが、事前の先生方の子どもたちへの言い聞かせは、大変だったと思います。 ・地域の連携はうまくいっていると思われず。 ・また、何か協力したいと思っています。 ・これからも地域力を生かし、行事を含めて教育活動に協力していきます。	C				
	保護者と連携した学習、学校公開、保護者会を実施し、家庭との連携の充実を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	1:60%未満				・学校は、児童の安全・安心に細心の注意を払って、様々な取組をしていると思います。 ・タブレット端末の活用は、今後の教育の大きな柱だと思います。有効な活用方法の探求に努めてください。 ・タブレット、良循環にしたいと感心します。 ・授業時間に制約があり、従来の教育の仕方とタブレットの使用は難しいと思いますが、先生方が絶えず研修をなさり、良い方向に進んでいくと感じます。 ・タブレットのルールは、各家庭で決めるべきものと思います。	D			
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					4			
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					4			
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4								
プラン6 なつて学校も家庭も地域も一体と	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4	4:80%以上	4	<b>肯定的評価:91.3%</b> 昨年度より、3.5%上回った。 ○校内の情報担当者がホームページ更新の計画表を作成し、積極的に情報を発信することができた。 ○学校支援地域本部が主体となり、夏まつりやミニ運動会など教員の参加が多く、子どもたちも楽しみになったと思う。 ○教員の地域行事の参加は家庭の都合もあり全員はできなかったが、昨年度よりかなり多くの教員が協力することができた。 ●地域教育連絡協議会では、資料を作成し評議員に必要な情報を共有したが、教員への周知が足りず毎回おこなっていることが伝わってなかった。どのような資料を用いてどのような会議を行っているかを、教員に周知していく。	A	9				
	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評議員に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3	3:70%以上	児童アンケートで「学校は、地域力の協力を得ていますか」に肯定的な回答		B	1				
	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4	2:60%以上			・学校支援地域本部が主体となっている活動では、地域力を生かした教育活動につながっているようなので、地域教育連絡協議会での有用な情報も、ぜひ教員の方々に周知していただき、学校・保護者・地域三位一体のさらなる連携につながることが望みます。 ・地教育を通じて学校の様子を伝えていただいて、地域も問題解決に協力していきたい。 ・夏まつり、ミニ運動会など教員の参加が多く、子どもたちも楽しみになったと思う。 ・PTAと青少年共催のミニ運動会では、多くの教員が参加して一緒に楽しんでいたのが、子どもたちも大喜びしていました。 ・地域と連携をとった活動が行われており、さらに充実できるよいと思っています。 ・地域清掃、サースクールなど地域との触れ合いもとてもいいと思います。町たんけん子どもたちは、道路もちゃんと歩き、お店の方の話をしっかり聞いていました。先生方が付いて行かず、子どもたちにとって良い体験だと思いましたが、事前の先生方の子どもたちへの言い聞かせは、大変だったと思います。 ・地域の連携はうまくいっていると思われず。 ・また、何か協力したいと思っています。 ・これからも地域力を生かし、行事を含めて教育活動に協力していきます。	C				
	保護者と連携した学習、学校公開、保護者会を実施し、家庭との連携の充実を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	1:60%未満				・学校は、児童の安全・安心に細心の注意を払って、様々な取組をしていると思います。 ・タブレット端末の活用は、今後の教育の大きな柱だと思います。有効な活用方法の探求に努めてください。 ・タブレット、良循環にしたいと感心します。 ・授業時間に制約があり、従来の教育の仕方とタブレットの使用は難しいと思いますが、先生方が絶えず研修をなさり、良い方向に進んでいくと感じます。 ・タブレットのルールは、各家庭で決めるべきものと思います。	D			
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					4			
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					4			
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:8													